

2023年4月9日 午前礼拝
「天の御国の生き方⑧」平和をつくる者
説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 5:9

9.平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

【説教要約】

マタイ 5:3, 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

マタイ 5:4, 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

マタイ 5:5, 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

マタイ 5:6, 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。

マタイ 5:7, あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。

マタイ 5:8, 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。

マタイ 5:9, 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

マタイ 5:10, 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

①

平和を望んでいない人はいないと思います。

平和は安全、安定と言い換えることができるかもしれません。

食べ物があるから安全、暴力がないから安全。からだも心も守られていると安心します。

また、他人との間にいさかいがなければ、心が穏やかに過ごせることと思います。

このような平和は、私も無意識にいつも欲している平和です。

しかし、ここで気づくことは、これらの平和は「自分が安全である」ということです。

自分が守られ、自分が被害に遭わず、毎日を穏やかに暮らせることを、おそらく多くの人は「平和」と言います。

しかし、これまでの「幸いな人」がそうであったように、イエス様の言われた特徴はイエス様と照らし合わせなければ本当のところが見えません。

イエス様が言われたのは、神の平和だからです。

②イエス様の平和

聖書が「平和」というとき、その反対には「敵意」があります。敵意があるから、平和が必要なのです。

イエス・キリストはただの人ではありません。目に見えない、無限の存在である神様が人間と同じからだを纏って来て下さった神の子なのです。

イエス様がこの世に来てくださったのは、神と私たちの間に平和をもたらすためでした。

エペソ 2:1, あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、
エペソ 2:2, そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。
エペソ 2:3, 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

神はこの世界と人間をお造りになられました。その神様と一人ひとりの間には「敵意」が存在しているのです。

これは、誰一人例外はありません。

先週の大木先生のメッセージにも出てきましたが、人は本来神様の栄光を反映する者として造られました。自分から神様とともに生きることをやめました。

神様の栄光ではなく、自分自身の栄光や利益を求めて、自分が誉められたえられる生き方を選んだのです。

私たちは皆、神様に逆らい、神様の栄誉を傷つけて「敵対」する存在なのです。そのため、神様はすべての人に対して「怒り」を燃やしておられます。神に逆らって生きているのですから、最後にはさばきとして永遠の地獄へ行かされるのです。これが、昔も今も、神様から見た人の姿です。

しかし神様は、私たちの生き方に怒っておられたと同時に、私たちを愛しておられました。自分勝手な生き方しかできない私たちを、かわいそうに想っておられたのです。

神様が取られた手段は、ご自分がすべての損を負って、私たちを赦すということでした。それが、イエス様が十字架にかかってくくださった意味です。

神様の視点に立ってみてください。

自分に損害や嫌な思いをさせてきた人がいるとします。つまり平和を壊した人がいるとします。

その人を心からあわれんで、赦し、自分から平和をもう一度持つために近づいていくことができますか。

キリストは、自分から敵である私たちのところへ近づいてくださり、いのちを捨ててくださったのです。

エペソ 2:14, キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、

エペソ 2:15, ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、
エペソ 2:16, また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

「二つのものを一つにし」と何度も出てきます。平和がない相手とは、相手と私、二人の存在です。しかしイエス様はご自分の犠牲によって、二つのものを一つにされたのです。

それはまず、神様と私たちのことです。
人は神様を一方的に裏切り、攻撃した「敵」です。しかしイエス様は、敵のためにいのちを捨ててくださったので、その犠牲が自分のためであったと信じる人に神様との平和を確実にお与えになることができます。
神との平和は、永遠のいのちです。

そして神様との平和を基に、クリスチャン同士の平和をもたらされました。
自分がキリストの平和を知っており、相手もキリストの平和を知っているので、互いの中に平和が生まれるのです。

私たちは誰一人同じ人間はおらず、完全に分かり合える人はいません。
しかし、一番深くにあるものによって一つになることができます。それは、「私たちは、キリストの平和、愛を知っている」ということです。
その集まりを、聖書は教会と呼びます。

私自身を省みると、私はあまり人と関わるのが得意ではありません。理由は、心の底に恐れを抱えているからです。
表面的に平和を取り繕うのはできます。笑うこともできます。しかし、一番欲しているのは、心の奥底での交流です。
それをキリストはいのち懸けで私に与えてくださいましたが、どこかで信じきれていない部分があるのです。
だから、人のことも正しく信じきれないのです。

③平和をつくる

マタイ 5:9, 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。

多くの人の考える「平和」と、神様の言われる「平和」の違いを見てきました。

人の思う平和は、自分の安全や自分の快適さです。
しかしイエス様が実践された平和はその逆で、ご自分を危険にさらす道でした。

一方的に損害をかけてきた相手のもとへ「自分から」近寄りました。

それは、人を愛しておられたからです。滅びに値すると知っておられたのに、かわいそうに想ってくださったのです。

平和を「つくる」とは、願うだけでなく、「自分からつくりに行く」という意味です。すなわち、イエス様がそうされたように、自分の安全をおびやかす相手の元へ自分から近づくということです。

人間的に考えれば、得をすることは一つもありません。
精神的にストレスになるし、さらに傷つくかもしれません。

ではどうして「平和をつくる者は幸い」なのですか。
それは私たちが味わった、イエス様が下さった平和を、その相手とも持ち、味わうためです。
その相手を、イエス様のように愛するためです。

その時私たちは、「神の子ども」として天の神様に喜ばれます。